

二〇一三年 十一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

自分を苦しめず、また他人を害しないことばのみを語れ。
これこそ実に善く説かれたことばなのである。

『スッタニパータ』

「口は災いの元」

昔から不用意な発言は自分に災いを招く結果になるから、言葉は十分に慎むべきだとされます。仏教には、妄語、綺語、悪口、両舌という戒めるべき悪い言葉があります。妄語は、嘘をつくこと。綺語は、特に意味のないおしゃべりのこと。悪口は、人のことを悪く言うこと。両舌は、他人の仲を裂くことば、告げ口のこと。

友達に嘘をつきバレて気まずい関係になった。授業中おしゃべりをして先生に怒られた。自分が嫌な人のことを陰で悪く言ったら近くで聞かれていた、などなど…。言葉に関するトラブルは、今も昔も変わりません。

「言葉を大切に」するということは、今月の言葉にあるように、自分を苦しめないように、他人を害しないように、慎重に言葉を選ぶことでもあるのではないのでしょうか。

今月の聖語

「縁」縁 みな「縁

こまつたことも みな「縁

木村無相

こんな話があります。

ある陶芸家が、仕事も人間関係もうまくいかず東京を飛び出し金沢へ行ったそうです。俺は誰にも頼らず生きていくと、一軒家を借りて作家活動を開始、もちろん近所挨拶などしません。ある日、その地域を地震が襲いました。瓦礫の下敷きになった彼を一番に助けたのは、一度も会ったことがない隣りのお婆さんだったのです。その時、人間は一人では生きていけない、人のぬくもりを感じてこそ生きていけるのだと思ひあたり、彼は、今ではそのぬくもりを陶芸に生かしているそうです。

この陶芸家は地震に遭うことを「縁に、「人間は一人では生きていけない」という真実に気付かされたのです。同じように、どんな「こまつたこと」になっても、それを単に不幸だと捉えず、すべて真実に出会う「縁」だと頂くとともに、違った人生の味わいがでてくるのではないのでしょうか。

合掌

宗教教育係